

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション1：海洋生物資源管理

Photo credit: Nick Hall

ノーザンリーフ漁業協同組合

パラオ共和国

1) 当プロジェクトの主眼点

ノーザンリーフ漁業協同組合（NRFC）の使命は、漁師、市場、政府を取り組みに参加させることにより、経済的・社会的利益を保障する持続可能な漁業管理を促進することである。

ノーザンリーフ地域は辺りな場所にあるため、何世紀にもわたって、漁業資源は比較的、手つかずのままだった。しかし、交通の便が改善され、漁業技術が向上したために、ノーザンリーフ以外の地域から来た漁師による漁が増えている。今日、魚の乱獲により漁業資源が減少し、それまでの自給自足のための最低限の漁業から商業的漁業へと全国的に移行し、歴史的な「珊瑚礁の割り当て」制度から、誰もが自由に行うことのできる漁業へと変化したため、この資源減少はさらに悪化した。

魚は小さくなっており、一回の漁で得られる魚の数も減少していた。漁師らはその理由を理解し、解決策を模索するため、ザ・ネイチャー・コンサーバンシー（TNC）との協力によりNRFCを創設した。

2) 参加組織およびその他のパートナー

近年、コミュニティ、伝統的リーダー、州政府、NGO が、魚種資源の減少についてすべきことを議論していた。これに呼応し、TNC は 2013 年、ノーザンリーフで試験的プロジェクトを開始した。本プロジェクトは、カヤンゲル州およびアルコロン州、パラオ国際珊瑚礁センター（PICRC）、パラオ自然保護協会（PCS）、海洋資源局（BMR）、パラオ保護区ネットワーク局（PANO）と協力して行われ、パラオにおける漁業管理を改革し、枯渇した魚種資源を回復させるために、統合的な漁業管理方法を試すために行われた。

NRFCはこれら組織の協力の元、パラオ共和国の最北海域の漁師らによって立ち上げられた。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

コミュニティ、実施パートナー、州政府と協力した活動を通し、プロジェクトを成功させるためには、能力開発が重要な要素であることが分かった。能力開発は、正式な教室での研修、地域集会、実地研修、積極的な話し合いの組み合わせを通じて行われた。

漁師やコミュニティメンバー、州の管理官・保護官の能力開発と研修では、次の3つの主要分野に焦点が当てられた。その分野とは、資源分析、規則適用、規制である。

- **資源分析**：TNCは魚種資源の状態を評価し、地域に関する漁師の知識を分析に取り入れるために、漁師と共に活動した。評価の結果、魚の個体数は確かに減少していることが分かった。捕れた魚の3分の2は繁殖前の小さな稚魚であるため、個体数の維持に貢献できていなかった。これにより彼らが行っていた漁業慣行が持続不可能なものであることが明らかになった。
- **規則適用**：最初から漁師らは、密猟を防止するための適切な規則適用なしには、漁船の操業制限は効果がないことに気づいていた。この問題に対処するため、ワイルドエイドと TNC は、漁業規則が適用され、珊瑚礁が保護されるように、地域の管理官を訓練し、管理官の法的権限を拡大する手助けを行った。NRFC のビジョンは、コミュニティが違法操業を排除し、魚種資源を回復できるように、規則適用と地域の能力を強化することである。
- **規制**：パラオ漁業の長期的な持続可能性は、漁師の生活、家族、コミュニティ関係に影響を及ぼすものである。話し合い、交渉、妥協を通じて、NRFC は、広範囲にわたる問題について、一連の厳しい規制を実施するため、漁師やコミュニティリーダー、政策立案者と共に活動した。地域の漁師を、規制の実施状況を監視するための監視員としてトレーニングすることは、規制計画の重要な要素だった。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または、同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

能力開発の成功は、トレーニングが州管理官・保護官、コミュニティメンバーの実際の能力ニーズを満たしているかどうかや、個人の学ぶ意欲、改善への願いや新しいスキルを学びたいという意欲を満たしているかどうかで主に測られた。

これまでに経験した困難な課題は、漁師らが能力開発や他の地域で同様のプロジェクトを再現することに重点を置いていないことである。



© Tane Sinclair-Taylor; TNC

5) このプロジェクトの次の段階

NRFCとパートナーとなっている各地域の政府の活動は漁業の保護に成果を上げており、資源の共同管理モデル、漁業改革モデルとして役に立っている。また、NRFCは地域の漁師らやコミュニティメンバーに、実際に利益をもたらしている。現在、NRFCおよびTNCはパラオで学んだことから教訓を得て、それをさらに他の地域で適用しようと試みている。例えば、学習交流支援としては、ミクロネシア連邦のポンペイ島、パプアニューギニアのマヌス島の漁師がパラオへ赴き、漁師らによる新しい資源評価技術と分析結果の使用方法を直接観察したことが挙げられる。このような交流により、パラオの海洋保護区が機能しているかを参加者に示し、話や課題を共有し、お互いに学ぶ機会が与えられた。